

1/18



日本のお正月を体験しよう！



本市内で暮らす外国人を対象とした、多文化共生イベント「日本のお正月を体験しよう！」を開催しました。

日本語指導ボランティアや高校生ボランティアにも参加していただき、約50人が日本の伝統文化を体験しながら交流を深めました。

2/1

優秀賞
松江商業高等学校
山本 華和さんの作品

最優秀賞
松江南高等学校
内田 旺汰さんの作品



令和7年度 全国高等学校総合体育大会

男子バレーボール競技大会

ラッピングバス出発式

今夏に本市内で開催されるインターハイ（男子バレーボール）を盛り上げるため市内の高校生が制作したポスター原画の最優秀・優秀作品をデザインしたラッピングバスが完成しました。

ラッピングバスは2月1日～7月31日の間、本市内を運行します。ぜひ、ご乗車ください。

松江市ホームページ



防災メールに登録しましょう。
QRコードを読み取って、
空メールを送ってください。



商標について：QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

松江まちかど

ダイアリー

市報

松江

目次

- 02 松江市PRキャラクターデザイン
市民・松江ファン投票
- 04 松江まちかどダイアリー
- 05 松江市長 上定昭仁の「上を向いていこう」/
町自連だより
- 06 食べごろ松江/シリーズ松江の匠
- 07 松江の皆さんこんにちは。/マイルレポート
- 08 引越しシーズン到来！
住所変更届出の受付時間を延長します
- 10 アイリッシュ・フェスティバル in Matsue 2025
- 11 住民税非課税世帯へ給付金を支給します
- 12 4月20日は松江市長・市議会議員選挙
- 14 後期高齢者医療制度の保険料額と納付方法
- 15 医療費の節約に取り組みましょう/
中海・宍道湖・大山圏域市長会通信
- 16 子育て・健康・福祉
- 18 ひとりで悩まないで
3月は「自死対策強化月間」です
- 19 情報ひろば
- 26 でかけてほしい～イベント情報～

松江市長 上定 昭仁の

上を向いていこう

Vol.44



「ゆるキャラ（松江市PRキャラクター）の制作を進めています！」

今年、1市7町村の合併によって新松江市が誕生してから20周年、松江城天守が国宝に指定されてから10周年という節目を迎えます。

これをきっかけに、松江の魅力に磨きをかけて全国・世界に発信し存在感を高めるとともに、市民のみなさんのまちへの愛着や誇りを育むことを目的に、松江市をPRするキャラクター、いわゆる「ゆるキャラ」を制作することにしました。松江の自然・歴史・文化や、ゆかりのある動植物など、その特長がイメージできるユニークで松江らしいデザインの、親しみやすい「ゆるキャラ」を制作したいと考えています。

昨年11月から今年1月まで「ゆるキャラ」のデザイン案を募集したところ、国内・海外から714もの応募をいただきました。観光・経済・デザイン分野の専門家など7人で構成する「松江市PRキャラクターデザイン選定委員会」が審査を行い選定した10作品について、2月18日から3月9日まで、市民と松江ファンのみなさんによる投票を実施します。

投票は、松江市の公式LINEからとなりますが、市役所本庁舎1階の正面玄関受付付近と各公民館において、シールによる投票も受け付けます。なお、LINEから投票された方には、抽選でデジタルギフトが当たりますよ🎁
「市民・松江ファン投票」を踏まえて4月に「ゆるキャラ」デザインを決定した後、5〜6月に愛称を募集します。7月に選定委員会によって愛称を決めることから、9月頃お披露目できる見込みです。
松江市のPRキャラクターとともに松江の魅力を発信してまいりますので、新しい「ゆるキャラ」の誕生にご期待ください。みなさんの投票をお待ちしています！



ゆるキャラ制作の詳細はこちら
(市ホームページ)



LINEからの投票はこちら
(市公式LINE)

町自連だより

「歴史のあるまち竹矢」

竹矢地区自治協会 会長 矢城 幸久やしろう ゆきひさ

またしても出た！ 新聞記事でも紹介されましたとおり、竹矢公民館建て替えに伴う周辺調査において、5世紀前半に築かれたと考えられる古墳で、埴輪や須恵器の破片や建築物の柱穴など大変貴重なものが数多く発見されました。

近くには出雲国分寺跡や国分尼寺跡、平濱八幡宮・武内神社があり、まさに「歴史の宝庫竹矢」と言っても過言ではありません。

このような素晴らしい歴史を再認識しながら、その上に新しい環境を取り入れた安全で安心して住み続けたい竹矢のまちづくり、地域の皆さんとともに取り組んで参ります。

さらに、新しく建設される公民館に地域の皆さんが今まで以上に気軽に集って活動できるように、公民館を地域の拠点・核として次なるまちづくりを進めていきたいと思えます。



〈竹矢公民館周辺の発掘調査時の写真〉



食べごろ松江

vol. 7



しまつえ旬もの食べてごせ

海の緑で感じる春「ワカメ」

日本の食卓に欠かせない「ワカメ」。普段から何気なく食べているワカメにも「旬」があります。徐々に寒さが和らぎ、陽気を感じることこの時季、海の中では、ワカメなどの海藻類によって春模様となります。

季節を問わず口にする機会があることから、年中海に生えているものと思われがちなのワカメですが、夏ころには胞子となるため、自然のものを見ることはほとんどありません。その後、秋が深まるにつれて、水温低下とともに発芽し、冬から春にかけて大きく成長したものが収穫されます。

本市では、入り組んだ海岸の地形により、風の影響を受けにくい環境があることから、ワカメ漁が盛んに行われており、しげが多く、漁業が限定されるこの時季には、漁師さんの重要な収入源となっています。ワカメ漁には、天然ものと養殖ものの漁があります。養殖とは、胞子を付けた紐（種糸）を波の穏やかな湾内に設置し、成長したワカメを刈り取る方法で、安定的な収穫が見込めることから、全国的に主流となっており、国内で流通するワカメのほとんどが養殖ものと言われています。一方で、近年では、本市島根町をはじめ、天然ワカメ漁も盛んに行われています。若手漁師が中心となり、天然ワカメの収穫だけで

はなく、買取、塩蔵加工などが行われ、地域の漁業を支える取り組みとして注目されています。

収穫されたワカメは、生や塩蔵、乾燥の状態に出荷されます。生のワカメは、茶褐色ですが、湯でおしすると、鮮やかな緑色に変わります。これを冷水で締めると、シャキシャキとした食感で豊かな風味が味わえます。塩蔵ワカメは、釜茹で、塩漬けされたもので、真水で戻すと生に近い食感と風味を味わえます。長期保存が可能な点も魅力です。乾燥ワカメは、カットワカメのような塩蔵と同じく水で戻すものが一般的ですが、おすすめしたいのは、「板ワカメ」。板ワカメとは、水洗いした生のワカメを、板状にペラペラと薄く、パリパリに乾燥させたものです。そのままでも、砕いてご飯にまぶしても、フライパンで軽く炒っておつまみにしても、そのパリパリした食感と磯の香りを楽しめます。本市を含む山陰地方ならではの特産品なので、お土産にもおすすめです。

【この記事に関するお問い合わせ】 産業経済部水産振興課 ☎ 55-5636



塩蔵加工場の様子。鮮度のいい状態で加工されるため抜群の品質



湯とおしされ、鮮やかな緑色に変わるワカメ

写真提供：先島丸 奥 広樹氏



ワカメの根の部分、メカブ。刻むと、粘り気が出て風味が際立ちます。毎年これを楽しみにしている人も多いのでは

おすすめ逸品



板ワカメをかりかけに、食感と風味があり、適度な塩味で白米が進みます

写真提供：しまねのぢげもん

市は長年にわたり地域産業の発展に貢献された技能者を表彰しています。

シリーズ「松江の匠」

令和6年度松江市手作り産業優良技能者表彰受賞者の紹介

一般、各団体から受賞候補者を募集し審査を経て、昨年11月21日、本市の手作り産業の発展に貢献された技能者の表彰式を行いました。受賞者は次の皆さんです。皆さんの今後の更なるご活躍を期待しています。

【功労賞（30年以上従事者）】

- 竹内 昭雄氏（畳製造業）（写真1列目左から2人目）
- 池内 春樹氏（石工業）（写真1列目右から3人目）
- 池内 秀信氏（石工業）（写真1列目右から2人目）

【奨励賞（15〜29年従事者）】

- 安部 啓一氏（伝統料理）（写真2列目左から4人目）
- 長谷川 三芳氏（ガラス加工業）（写真2列目右から4人目）
- 齋藤 寛之氏（清酒製造業）（表彰式ご欠席）
- 土屋 知久氏（陶器加工業）（写真2列目左から3人目）
- 大塚 英之氏（伝統料理）（写真2列目右から3人目）
- 石倉 国明氏（造園業）（写真1列目左から1人目）



松江市手作り産業優良技能者表彰式



〈受賞者紹介動画〉



〈松江の匠ホームページ〉

松江の皆さん こんにちは。



いし みさお
飯石 三三男

昭和33年生まれ。松江市では、昭和40年から昭和52年までの少年期から青年期を過ごす。松江南高卒業後、大学入学と同時に上京し現在に至る。東京松江会会員、東京島根県人会員。



よく本名ですかと聞かれますが本名です。昭和33年3月30日生まれなので三三男(みさお)です。また、名字の飯石は、「出雲風土記」にも登場する地名の飯石郡(いしし)の(こおり)に由来します。

生まれたのは、出生時の住所表記でいうと仁多郡仁多町三成ですが、ここは、高天原を追放されたスサノヲが最初に降り立った船通山の近くにあり、出雲族であるというわけが出自は、隠そうにも隠しようがありません。

木次出身の父の転勤で雲南の郡部を転々としたのち、昭和40年小2の時に松江市に落ち着き、法吉小、内中原小、松江三中、松江南高へと進み、卒業後、昭和52年に上京して都内の私立大学に入学。

そして、大学卒業後は、そのまま東京で就職して結婚、長男誕生というのがわたしの経歴です。

令和5年3月に定年退職

「東京松江会」への入会者を募集しています。関東地方在住の人をご紹介いただける人はご連絡ください。
〒140-0001 品川区北品川1-1-16 第2小池ビル6階 樹さんびる内 東京松江会事務局
☎090-1188-0776 (幹事長 境 真樹) ✉tokyomatsuekai@gmail.com 東京松江会ホームページ

まちをよくする マイルレポート

笑顔を守る 我々の使命

松江市消防団玉湯方面団玉湯分団湯町班副分団長

すぎ 杉谷
とも 倫紀

1月11日、毎年恒例の消防出初式における放水演技が松江城内堀で行われました。昨年から新たに「消防団の車両展示」と「こども放水演技」を行っています。

「車両展示」では、消防車や資器材を揃えました。実際に乗車し、資器材に触れたこどもたちはどの子も目をキラキラさせていました。また、ベビーカーで来られた家族やシニアの夫婦まで、幅広い方々に興味関心をもっていただいた事に驚きと喜びがありました。

我々消防団も、約400人の市民の皆さんと触れ合えたことに感謝しています。

「こども放水演技」は、市内小学校への出前授業で関心を持った児童を募り、一斉放水に参加できる取り組みです。今年も男女7人の児童が防火

服、ヘルメットを着用し、消防団員がサポートしながら放水を行いました。緊張感とワクワク感が伝わり、参加した児童には貴重な体験をしてもらえたと感じています。なにより驚いたのは、カメラを向ける報道や市民カメラマン、そして雄姿を心待ちにしてスマホを向ける父母たちの多さで、その中心にいる児童らは、まさにヒーローのようでした。

近年多発する自然災害により、消防団の役割は年々増しています。広く市民の方々と触れ合えるこのような活動を通して、皆さんの防災意識が高まる事を期待します。

こどもたちの笑顔の先に明るく素晴らしい未来があることを願い、引き続き我々は地域のために使命感をもって日々努めてまいります。



〈消防出初式の様子〉